

米をめぐる関係資料

令和 5 年 10 月

農林水産省

目次

【① 我が国における米の状況】

○米の全体需給の動向（昭和35年～）	4
○米の需要量及び販売価格の動向	5
○米の用途別・年産別面積の推移	6
○令和4年産の水田における作付状況	7
○米の流通経路別流通量の状況	8
○米の流通の状況	9
○家庭における1世帯当たりの 米、パン、めん類の購入量の推移	10
○家庭における1世帯当たりの支出金額の推移	11
○米の消費における家庭内及び 中食・外食の占める割合	12
○米の消費動向	13～15
○主食用米の販売動向	16
○（参考）茶わん1杯のお米の値段	17
○販売目的で作付けした水稻の 作付面積規模別農業経営体数	18
○米の作付規模別60kg当たり生産費	19
○水田の利用状況の推移	20
○政府備蓄米の運営について	21
○日本における穀物等の備蓄	22・23
○政府備蓄米の無償交付	24
○東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄	25
○福島県における県産米の安全・安心確保への取組	26
○令和5年産米の作付制限等の対象地域	27

【② 食料・農業・農村基本計画】

○食料・農業・農村基本計画：本文	29
○食料・農業・農村基本計画：令和12年度における 食料消費の見通し及び生産努力目標	30

【③ 需要に応じた生産の推進に向けた施策等】

○令和5年産水田活用予算の全体像	32
○水田活用の直接支払交付金	33

○水田農業の高収益化の推進	34
○畑地化促進事業の推進状況	35
○畑作物産地形成促進事業の概要	36
○水田活用の直接支払交付金の交付対象水田	37・38
○飼料用米・米粉用米の支援に係る課題と対応方向	39
○種子の増産スケジュール（飼料用米の多収品種）	40
○令和5年産以降の飼料用米への支援について	41
○種子の増産スケジュール（米粉用米の専用品種）	42
○令和5年産以降の米粉用米への支援について	43
○令和5年産における水田活用直接支払交付金及び 関連対策の見直し	44
○各都道府県において栽培可能な多収品種	45
○米粉パン・米粉麺に適した米粉専用品種	46・47
○飼料用米の申請項目の変更について	48
○産地交付金の運用について	49
○農業経営基盤強化準備金制度の対象事業について	50
○国産小麦・大豆供給力強化総合対策	51
○小麦・大豆の国産化の推進の執行状況	52
○麦・大豆収益・生産性向上プロジェクト成果	53
○麦・大豆ストックセンター整備対策等の成果	54
○需要に応じた生産・販売の推進状況	55
○主食用米の需給安定の考え方について	56
○収入保険制度の実施	57
○米・畑作物の収入減少影響緩和交付金	58
○ナラシ対策（補てん額（試算）・加入状況）	59・60
○米穀周年供給・需要拡大支援事業	61
○コロナ影響緩和特別対策	62
○令和4・5年度の保管料支援のイメージ	63
○米穀周年供給・需要拡大事業の主な取組事例	64
○農業再生協議会について	65
○全国的な推進組織について	66
○需要に応じた販売について	67

目次

○中食・外食向けの販売量の状況について	68・69
○中食・外食向けの需要に応じた生産・販売辞令	70
○「米と健康」に着目した情報発信について	71
○HP及びSNSを活用した米の消費拡大の情報発信	72
○YouTube を活用した米の消費拡大の情報発信	73
○米の消費拡大運動の連携について	74
○エシカル消費に着目した米の消費拡大の取組	75
○産地と中食・外食事業者等の米マッチングフェア	76
○稲作農業の体質強化総合対策事業	77
○生産コスト低減に向けた具体的な取組	78・79
○水稻の多収品種	80
○スマート農業の総合推進対策	81
○スマート農業実証プロジェクト	82
○農産物検査の見直しについて	83・84
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム	85
○生産から消費に至るまでの情報の連携と活用	86
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム会員	87
○米（玄米・精米）の物流合理化について	88

【④ 新規需要米の取組状況】

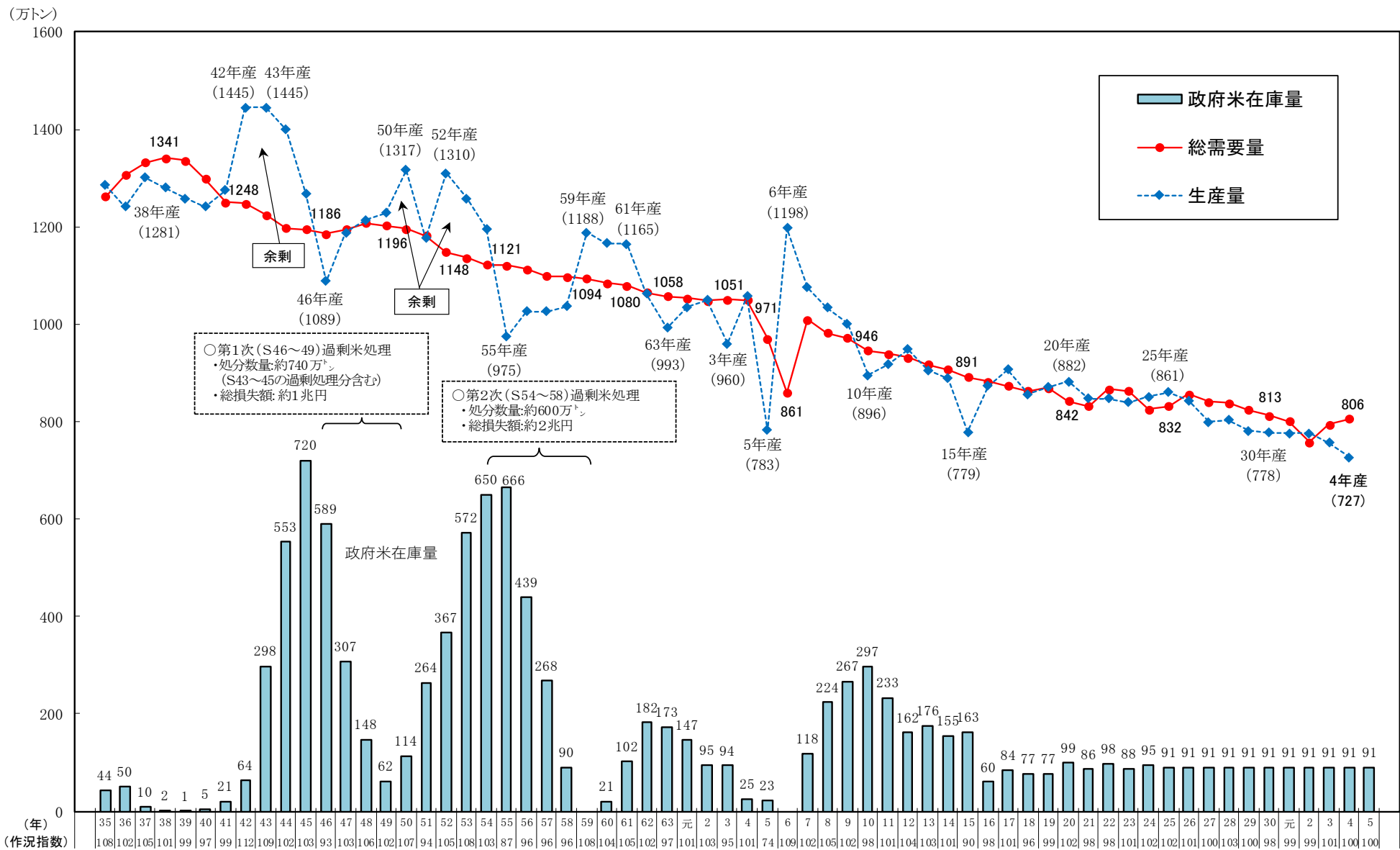
○多収品種について	90
○飼料用米の取組状況	91
○令和4年産飼料用米の出荷方式、品種別面積	92
○飼料用米の供給状況	93
○配合飼料メーカーの立地状況と 飼料用米の集荷・流通体制	94
○（参考）飼料用米の流通経費について	95
○米粉用米の状況	96
○米粉によるグルテンフリー食品市場の 取り込みに向けて	97
○米粉の利用拡大支援対策事業	98・99
○日本酒の需要動向と原料米の使用量について	100
○酒造好適米の需要に応じた生産について	101

【⑤ コメの輸出・輸入】

○コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況	103
○商業用の米の輸出数量及び輸出金額の推移	104
○パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移	105
○農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略について	106
○輸出拡大実行戦略品目別輸出目標	107
○輸出促進法の概要	108
○全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会の概要	109
○品目団体による輸出促進のための取組について	110
○コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて	111
○輸出用米生産の取組事例	112～114
○中国向けコメ輸出の状況	115
○海外における実需者の事例	116
○経営規模・生産コスト等の内外比較	117
○日米の水稻栽培法の主な違い	118
○コメの内外価格差	119
○コメの輸入制度	120
○O A 米の運用に関する政府の方針・見解	121
○国家貿易によるコメの輸入の仕組み	122
○令和4年度のS B S 米の輸入入札状況	123
○O A 米の販売状況	124
○コメの国家貿易の運用に伴う財政負担	125
○O A 米をめぐる国際関係	126
○総合的なT P P 等関連政策大綱	127・128
○C P T T P 豪州枠に係る会計検査院からの指摘	129
○豪州枠に係る備蓄米運営の見直し	130
○C P T T P 英国加入 対日関税に関する 日英間の合意内容	131
○日E U ・E P A 交渉結果	132
○日米貿易協定交渉結果	133
○世界のコメ需給の現状	134
○コメ輸出国の動向	135

① 我が国における米の状況

米の全体需給の動向(昭和35年～)



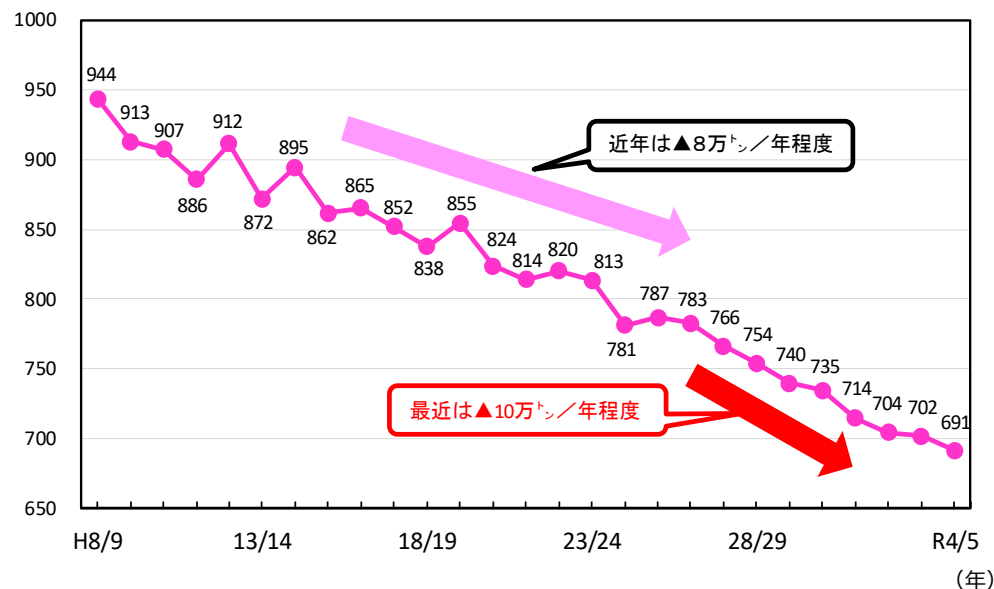
注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
4. 総需要量は、「食料需給表」(4月～3月)における国内消費仕向量(陸稲を含み、主食用(米・粟・米穀粉を含む)のほか、飼料用、加工用等の数量)である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
5. 生産量は、「作物統計」における水稲と陸稲の収穫量の合計である。

米の需要量及び販売価格の動向

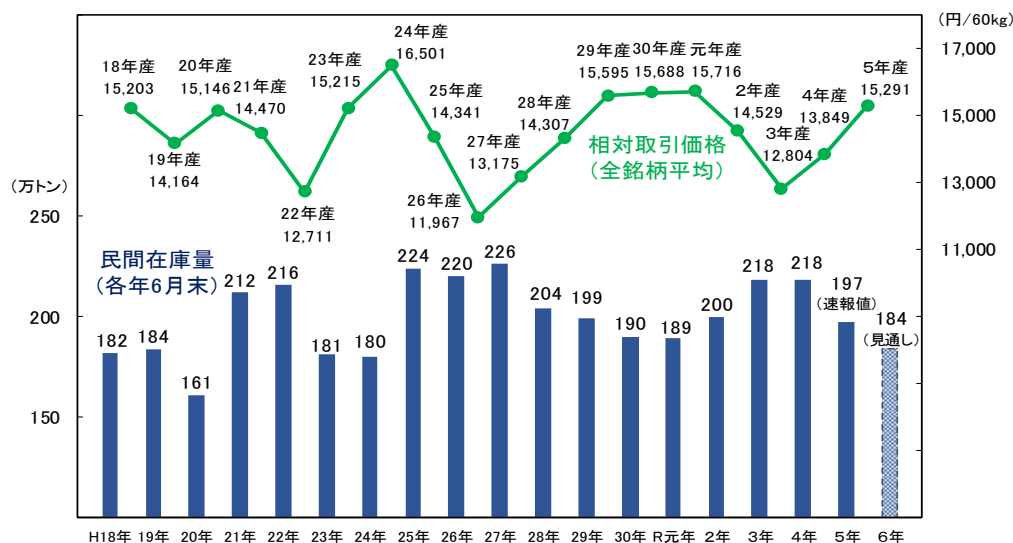
- 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近は人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。
- 米の相対取引価格は近年、民間在庫水準の変動を受け、価格も変動し、令和4年産米の平均は前年産から+1,000円程度上昇。

【主食用米の需要量の推移】

(万トン)



【米の相対取引価格と民間在庫量の推移】



注1：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和4年産は出回りから5年9月までの速報値、令和5年産は5年9月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

注2：民間在庫量は、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和5年7月）による。

米の用途別・年産別面積の推移

(単位：万ha)

用途 年産	主食用米		備蓄米	加工用米	新規 需要米						
		生産量 (万トン)				飼料用	WCS用稲 (稲免酢 粗飼料稲	米粉用	新市場開拓用 (輸出用米等)	酒造用	その他
H20	159.6	866	H22年産ま では、主食 用米として 生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	831		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	824		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	726	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	723	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	701	3.6	4.8	17.5	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	670	3.6	5.0	20.8	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0
R5	124.2	662	3.5	4.9	20.5	13.4	5.3	0.8	0.9	—	0.0

注1 主食用米：統計部公表値で、生産量は9月25日時点の予想収穫量。
備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積。加工用米及び新規需要米：取組計画認定面積。
注2 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめている。
注3 ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある